

日進月歩

福山市立手城小学校
研究だより(図画工作科)No.3
令和元年5月16日
山崎 由佳

第一回図画工作科授業研究を行いました！

5月9日、第1回目の図画工作科の授業研修を5年1組「立ち上がれ！マイライン」という題材で行いました。連休明けの落ち着かない中、クラスを空けて参観してくださり本当にありがとうございました。

今年度は、例年とは異なり、低学年で絵画・工作・造形遊び1本ずつ、高学年で絵画・工作・造形遊び1本ずつ公開することとしました。高学年工作の題材から、皆さんでたくさんのが学べたと思いますので、まとめていきます。

【事後協議より】

・児童は充実感を感じていたか。

- 試す・作る時間がたくさんあった
- 学習計画があることにより、今後の見通しを持つことができた。
- 教師が児童に対して肯定的な声かけをすることにより充実感が高まった。
- ペンチの使い方を理解できていない児童がいた。
- ペンチを使うからこそできる形に気付けるとよい。

・児童は対話しながら作品作りに取り組んでいたか。(途中鑑賞は有効であったか)

- 作品コーナーを設けることで、友だちの作品をみやすくなった。
- 班机になっていたのでも、対話をしながら作品を作ることができた。
- 立ち歩きの鑑賞の時間が良かった。
- 班机だからこそ、針金が伸びていて危なかった。

・その他(題材・用具について等)

- ペンチとラジオペンチの違いに気付けた。
- 針金が柔らかすぎて、ペンチの必要性を感じられなかった。
- ペンチの使い方の指導必要(先の方で挟んで曲げる)
- 用具を使った時の印象を伝え合う時間があってもよい。
- 「子どもが使っていくうちにペンチの使い方に気付く」をねらったが、指導していた方がよかった。

【村上先生より】

- ・子どもたちの雰囲気(表情)よかった。
- ・子どもの作品→個人差(個性がある)だからこそ面白い。
- ・「芸術作品を作りたい」と言った子がいた。
- ・アンケート「ペンチを使ったことがあるか。」→児童の実態把握ができてよい。

本時のポイント

- ・道具と材料との関わり→道具を使うことのよさを実感させる。
- ・立つこと、頑丈にすること、装飾をすること。

- ・本時では、ペンチの使い方を指導しておくことが必要だった。(安全面)
- ・教えることと、活動する時間(試す・作る)を明確にする。
- ・骨組みと、それ以外を区別するために色分けすることもよい。

- ・アルミと鉄線の質感の違いを体感させて、両方を使って作品を作るようにするとよい。
- ・立つことの本質→3点で支える，円い形の台座について気付かせる。三脚を見せるとよい。

立ち上がれ！マイラインにつながる題材等

< 1・2年 >

- 「くしゃくしゃ ぎゅう」
- ・ひもの結び方を知る。
 - ・紙の置き方による強度の違いを知る。

- 「つないで つるして」
- ・つなぎ方を工夫する

< 3・4年 >

- 「ひもひもワールド」
「つなぐんぐん」
- ・材料の特徴を生かして，つなぎ方や組み合わせ方を工夫する。

< 5・6年 >

- 「立ち上がれ！マイライン」
- ・自分のつくりたい形を作る。
 - ・針金のよさやおもしろさを生かしながら，表し方を工夫する。
 - ・ペンチやラジオペンチの使い方

「アミアミアミーゴ」

- ・生活に役立つもの
- ・材料のよさを生かして，編み方や織り方を工夫する。

各題材でのつきたい力を明確にして，次の学年に...ということが大切です。

いかに児童が経験しているかということが作品に現れます。

今回の5-1では，今まで豊富な経験をしてきたのだと感ずることができました。

今回の授業では、「教える」と「体験する」ことのバランスについて考えることができました。私は、「使い方が分からない道具を与えられても楽しくない。使い方が分かってこそ楽しく感じ，自分の作品作りに生かしていくことができる。」という言葉がとても印象に残っています。まさにその通りだと感じたからです。「教える」ということ，「気付く」ということ，「体験する」ということこの3点のバランスがうまくとれたとき，児童は「楽しい」と感ずるのだと思います。これは，図画工作科の授業だけでなく，様々な教科でもいえるのではないのでしょうか。多くを学ぶことができた授業研でした。先生方，たくさんのご協力本当にありがとうございました。

この通信と同時に，学びづくり案もとを配布します。今年度の図画工作科学びづくり案は，この様式で作成をしてください。よろしくお願いいたします。

